

授業科目 発達障害作業療法評価学

【担当教員名】 永井 洋一	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：GIO>】  
 発達障害に対する作業療法の評価を遂行するために必要な正常発達に関する基礎知識と、発達障害を評価する検査・観察に関する知識を身につける

- 【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】
1. 発達障害領域における作業療法評価の特徴を説明できる
  2. 発達評価のためのスクリーニングと領域別評価の目的を説明できる
  3. 小児期における姿勢・運動の発達とその評価方法を説明できる
  4. 小児期における微細運動の発達とその評価方法を説明できる
  5. 小児期における知覚・認知の発達とその評価方法を説明できる
  6. 小児期における心理社会的能力の発達とその評価方法を説明できる
  7. 小児期における日常生活活動・適応行動（遊びを含む）の発達とその評価方法を説明できる
  8. 代表的疾患に対する評価の実際をVTRなどによって擬似的に体験し、要点を理解できる

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	発達障害の作業療法評価総論	1	講義
2	スクリーニングと領域別評価	2	"
3	運動と姿勢の発達とその評価(1)	3	"
4	" (2)	"	"
5	目と手の協調性の発達とその評価(1)	4	小テスト1、講義
6	" (2)	"	講義
7	知覚・認知の発達とその評価(1)	5	小テスト2、講義
8	" (2)	"	講義
9	心理社会的能力の発達とその評価(1)	6	小テスト3、講義
10	" (2)	"	講義
11	日常生活活動・適応行動の発達とその評価【遊びを含む】(1)	7	小テスト4、講義
12	" (2)	"	講義
13	脳性麻痺児の評価概論	8	"
14	精神発達遅滞児の評価概論	"	"

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	作業療法学全書第3巻『作業療法評価学』、日本作業療法士協会（編）、協同医書出版社、1999、¥3,200 作業療法学全書第6巻『発達障害』、日本作業療法士協会（編）、協同医書出版社、1999、¥3,400			
参考書	『発達障害と作業療法【基礎編】』、岩崎清隆、三輪書店、2001、¥3,300			
その他の資料	授業時に資料を配付する			

【評価方法】 出席：10%、積極的参加：10%、小テスト：30%、期末試験：50%	【履修上の留意点】 原則として人間発達学to小児科学の単位を修得していなければならない 演習とセットで学習内容が構成されているので、欠席は大きなハンディになる
--	---

作業療法学科  
専門